HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	シベリア文学観光の研究 ： 地域アイデンティティ・記憶・身体化に着目して［論文内容及び審査の要旨］
Author(s)	Vovk, Viktoriia
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(観光学)
Dissertation Number	甲第16041号
Issue Date	2024-06-28
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/92792
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	VOVK_Viktoriia_review.pdf, 審査の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（観光学）　　氏名：ヴォフク　ヴィクトリア

審査委員	主査　教授	西　川　克　之
	副査　教授	パイチャゼ　スヴェトラナ
	副査　准教授	天　田　顕　徳

学位論文題名

シベリア文学観光の研究

―地域アイデンティティ・記憶・身体化に着目して―

本論文は、近年、シベリアに所縁のある作家が制作した地域の歴史や文化を主題とした文学作品群からなる「シベリア文学」に焦点を当てた観光ツアーが多く実施されていることに着目し、はたしてそうした「シベリア文学観光」はどのような社会的、文化的な意義を有しているのかを明らかにすることを目的とした、文学、歴史、地域研究、観光研究の分野にまたがる領域横断的研究である。まずはシベリア地域アイデンティティがいかに形成されてきたのかという点について歴史的に俯瞰し、またそうしたアイデンティティ形成と影響しあいながら展開してきたシベリア文学のうち 20 世紀後半の「農村文学」および「エコロジー文学」を中心に考察を加えてその特徴を明らかにした上で、インタビュー調査及びアンケート調査によるデータを基にしてシベリア文学観光の実践に関して観光社会学的な視点から分析を試みている。こうした考察、分析の結果として、ロシア連邦文化省の政策的提言に基づき、地域博物館、文学館等の主催者が企画、提供するシベリア文学観光の実践においては、定式的な観光スポットを周遊するという点においては「孤立的」観光空間の要素が色濃く伺われる一方で、参加者個々の細かな観光行動においては、即興的、自発的なパフォーマンスが許容される「混交的」空間の側面を見出すことができるのであり、特に具体的な事物に触れることによって喚起される身体的、感覚的経験と、そうした経験を通した個人的な生活の記憶の想起によって、文学観光ツアー参加者の地域アイデンティティが強化されることが、シベリア文学観光の最大の特徴であると主張される。

本論文の主な学術的貢献は以下のとおりである。第一に、シベリア文学を独自性のあるジャンルとして認め、その特徴を産業主義に抗う農村共同体への郷愁やエコロジー重視の理念に求めようとするオリジナルな視点があること、また、シ

ベリア各地域のアイデンティティが小さな地理的、社会的単位に収斂するよりはむしろ、中心と周縁という構造、ナショナル・アイデンティティとの関係の複雑性といった要因によって、広範な「シベリア地域」に包摂されていくあり方について歴史的経緯をもとに説明している点、さらに、実際のツアーへの参与観察を通して得られたシベリア文学観光に関する資料的にも価値の高いデータに基づいて観光社会学的研究成果を示した点である。

しかしながら一方で、本論文には以下のようないくつかの課題も残されている。まず、「文化空間」「観光空間」などの用語における「空間」と、「場所」の相違が明確に意識されないまま用いられる傾向があり、それが個々の観光実践における「身体化」の複雑さに対するより精密な分析を阻んでいるのではないか。次に、シベリア文学ツアーに参加する「地元民」とは社会的にはどのような存在であり、またその過去や現在がどのように「地域アイデンティティ」と結びつくのかという点についてより丁寧に分析、論述する必要があったのではないか。また、シベリア地域アイデンティティの形成に関して、第二次世界大戦以降の展開、特に、インテリ層の移動と農民との出会いを含めた、シベリア独立運動の影響についてより厚みのある考察が加えられるべきではなかったか。さらに、本論文においては文学観光を通じて地域アイデンティティが強化されることを肯定的に捉える基調が伺われるが、ロシア政府および地方行政の政治的イデオロギー操作の可能性を含めて、アイデンティティ強化の是非についてはより慎重な学術的分析がなされるべきではなかったか。

しかしながら、こうした不足や課題は本論文の独自性の基幹をなす学際性、領域横断性の裏返しであるとも考えられる。ここで提示されたシベリア文学観光の実践的研究は、本格的な先行研究がない独自性の高いものであり、さらにそれを、素材となる文学作品の分析、広域的な地域アイデンティティの形成史、加えて観光経験や空間の類型化に関わる観光社会学、観光文化学的枠組みに沿って議論展開を試みた視野の広さと展望の大きさは大いに評価される。

こうして本論文は、広範な歴史的資料と多数の文学作品をはじめとする一次資料をもとにしつつ、フィールドワークで得られたデータを活用して理論的整合性と説得性を有した議論を展開しており、博士学位論文に求められる水準を十分に満たしていると認められる。したがって審査委員会は博士（観光学）学位の授与に値するものとして、本論文を合格と判断した。